

2023年度 第3回九大本番レベル模試(文学部) 国語 採点基準

一 (評論) 採点基準(合計 45点)

☆二の現代文の配点は、「内容点」(ABC・・・)と「構造点」(XYZ・・・)で構成されます。また、内容点は各条件内に要素(①②③・・・)が3つ以上あり、得点がある場合、満点の範囲内で要素点が1点プラスされます。

問1 8点

(模範解答例)

A①〇1点

A②〇1点

「正義の味方」という自己陶醉と共に 悪者を攻撃するのが正義の徴という風潮があり、〈A 2点〉

B〇1点

「正義」の名分は暴力正当化の根拠になり、〈B 1点〉

C〇1点

自己陶醉が心のリミッターを外させて、〈C 1点〉

X〈分析〉ABCのうち2種以上に〇↓+1点

D①〇1点

D②〇1点

多数派の正義の味方が 少数派の悪者を徹底攻撃する構図を作り出すから。〈D 2点〉

Y〈総合〉Dに〇↓+1点

(内容【5点】+構造【2点】=8点)

【構造点】

☆Xは、傍線部の理由説明をすべく、Aの風潮に含まれる、B「正義」と、C「自己陶醉」の〈矛盾〉しない二条件に〈分析〓分けること〉する構造への評価である。ここでは〈Aの要素、条件B、条件C〉の内の二種二つ以上があればこの構造の骨組みが成立しているとみなして1点加点。

X〈分析〓分けること〉 〈Aの要素、B、C〉の内の「二種二つ以上」〇1点

☆Yは、B、CをDに〈総合〓まとめること〉する構造への評価である。ここではDの要素が一つ以上あればこの構造の骨組みが成立しているとみなして1点加点。

Y〈総合〓まとめること〉 Dの要素 〇1点

◎ 採点のポイント

※内容点の採点のポイントは以下のとおり。ただし、【構造点】X・Y(各1点)は、右に示した要素を組み合わせた、また要素の意味内容が成立している場合にのみ加点する。

A『正義の味方』という自己陶醉と共に悪者を攻撃するのが正義の徴という風潮があり、〈2点〉

※傍線部の理由説明をするための、「風潮」の条件(前提条件)。

①『正義の味方』という自己陶醉と共に「の要素」(1点)

○『正義の味方』という自己陶醉とナルシズムと共に「『正義の味方』だという自己陶醉に加えて」な どいでも可。

✕『正義の味方』という自己陶醉」のニュアンスの成分が入っていなければ✕。

②「悪者を攻撃するのが正義の徴という風潮があり、」の要素。(1点)

○「悪い者を攻撃するのが正義の証しという風潮があり」「悪者を排撃するのが正義の徴という潮流があり」などでも可。

✖「悪者を攻撃するのが正義の徴という風潮」のニュアンスの成分が入っていないければ✖。

B『正義』の名分は暴力正当化の根拠になり、(1点)

※傍線部の理由説明をすべく、Aを説明してゆく「正義」の条件。

○『正義』の大義名分は暴力を正当化する根拠になり、『正義』の錦の御旗は暴力正当化のための理由となり、などでも可。

✖『正義』の名分は暴力正当化の根拠」のニュアンスの成分が入っていないければ✖。

C「自己陶酔が心のリミッターを外させて、」(1点)

※傍線部の理由説明をすべく、Aを説明してゆく、Bとは〈矛盾〉しない「自己陶酔」の条件。

○「自己陶酔が心の中のリミッターを解除して、」「自己陶酔が心の中の制限装置を外させて、」などでも可。

✖「自己陶酔が心のリミッターを外させる」のニュアンスの成分が入っていないければ✖。

D「多数派の正義の味方が少数派の悪者を徹底攻撃する構図を作り出すから。」(2点)

※B、Cをまとめて結論づける条件。

①「多数派の正義の味方が」の要素。(1点)

○「多数派を占める正義の味方が」「多数派であることも多い正義の味方が」などでも可。

✖「多数派の正義の味方」のニュアンスの成分が入っていないければ✖。

②「少数派の悪者を徹底攻撃する構図を作り出すから。」の要素。(1点)

○「少数派に追いやられた悪者を徹底的に攻撃する仕組みを作り出すから。」「悪者を徹底攻撃する要因となるから。」などでも可。

✖「(少数派の)悪者を徹底攻撃する」のニュアンスの成分が入っていないければ✖

問2 7点

(模範解答例)

A○1点

倫理学は、善と悪の区分を事とするのだが、(A1点)

B○1点

区別するのは善を価値的に優位に置くからであり、(B1点)

C○1点

その結果両者の間における暴力性と攻撃性をもたらすという意味で、(C1点)

X(分析)ABCのうち2つ以上に○↓+1点

D①○1点

D②○1点

暴力性を正当化して、強い者に奉仕するという宿命を免れられないものである。(D2点)

Y(総合)↓Dに○↓+1点

(内容【5点】+構造【2点】=7点)

【構造点】

☆Xは傍線部「倫理学」を説明すべく、その本分であるA「善悪の区別」を、B、Cの〈因果関係〉をなす二条件に〈分析〓分けること〉として説明して行く構造への評価である。ここでは、〈A、B、C〉の内の二種二つ以上があれば、この構造の骨組みが成立しているとみなして1点加算。  
X〈分析〓分けること〉 〈A、B、C〉の内の二種二つ以上 ○1点

☆Yは、B、CをDに〈総合〓まとめること〉する構造への評価である。ここでは条件Dの要素があればこの構造の骨組みが成立しているとみなして1点加算。  
Y〈総合〓まとめること〉 Dの要素 ○1点

◎ 採点のポイント

※内容点の採点のポイントは以下のとおり。ただし、【構造点】X・Y(各1点)は、右に示した、条件を組み合わせた、また要素の意味内容が成立している場合にのみ加算する。

A「倫理学は、善と悪の区分を事とするのだが、」〈1点〉

※傍線部「倫理学」を説明すべく、倫理学の本分「善悪の区別」を説明していく条件。

○「倫理学は、善悪の区分に専心するものだが、」「倫理学は、善と悪の区別を仕事とするのだが、」などでも可。

✕「倫理学は、善と悪の区分を(事と)する」のニュアンスの成分が入っていないと✕。

B「区別するのは善を価値的に優位に置くからであり、」〈1点〉

※傍線部を説明すべく、Aを〈因果関係〉で説明して行く〈因〉の条件。

○「区分するのは善を優位の価値に置くからであり、」「識別するのは善を価値的に優位とみなしているからであり、」などでも可。

✕「区別するのは善を価値的に優位に置くから」のニュアンスの成分が入っていないければ✕。

C「その結果両者の間における暴力性と攻撃性をもたらすという意味で、」〈1点〉

※ 傍線部を説明すべく、Aを〈因果関係〉で説明して行く〈果〉の条件。

○「結果的に善悪の間に暴力性と攻撃性を引き起こすという意味で、」「両者(〓善と悪)間における暴力性と攻撃性をもたらすことになり、」などでも可。

✕「(その結果) 両者(〓善と悪)の間に暴力性と攻撃性をもたらす」のニュアンスの成分が入っていないければ✕。

D「暴力性を正当化して、強い者に奉仕するという宿命を免れられないものである。」〈2点〉

①「暴力性を正当化して、」の要素。(1点)

○「暴力性を正当化して、」「暴力性の正当化の道具として、」などでも可。

✕「暴力性の正当化」のニュアンスの成分が入っていないければ✕。

②「強い者に奉仕するという宿命を免れられないものである。」の要素。(1点)

○「強い者に与するという宿命から逃れられないものである。」「強者に肩入れするという宿命を刻印されているものである。」などでも可。

✕「強い者に奉仕する宿命を免れられない」のニュアンスの成分が入っていないければ✕。

(模範解答例)

A①〇1点

A②〇1点

正と邪には価値的な落差があり、それが力関係の流れに加重を加えて、〈A 2点〉

B①〇1点

B②〇1点

たとえばテロリストの憎悪を、正義の理念で踏みつぶしたとしても、〈B 2点〉

C〇1点

さらなる憎悪を作り出し、〈C 1点〉

X〈逆説〉ABCの2種以上に〇↓+1点

D〇1点

結局、大きく深く黒い憎悪の流れを世界史の上に生み出してしまふという点。〈D 1点〉

Y〈総合〉Dに〇↓+1点

(内容【6点】+構造【2点】=8点)

【構造点】

☆Xは、傍線部を説明すべく、前提条件のAを、「憎悪」に関する〈矛盾〉する二条件B、Cに引き裂いて説明していく〈逆説〓矛盾を含むこと〉の構造への評価である。ここでは〈Aの要素、Bの要素、C〉内の二種二つ以上があればこの構造の骨組みが成立している」とみなして1点加算。

X〈逆説〓矛盾を含むこと〉 〈Aの要素、Bの要素、C〉内の二種二つ以上 〇1点

☆Yは、B、CをDに〈総合〓まとめること〉する構造への評価である。ここでは条件Dがあればこの構造の骨組みが成立している」とみなして1点加算。

Y〈総合〓まとめること〉 Dの要素 〇1点

◎ 採点のポイント

※内容点(の採点のポイント)は以下のとおり。ただし、【構造点】X・Y(各1点)は、右に示した要素を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加算する。

A 「正と邪には価値的な落差があり、それが力関係の流れに加重を加えて、」〈2点〉

※傍線部を説明するための話題の条件。

① 「正と邪には価値的な落差があり、」の要素。(1点)

- 「正と邪には価値的な序列があり、」「正邪には価値的な傾斜があり、」などでも可。
- ✕ 「正と邪には価値的な落差がある」のニュアンスの成分が入っていないければ✕。

② 「それが力関係の流れに加重を加えて、」の要素。(1点)

- 「それが力関係の傾きに加重を加えて、」「それが力関係の流れを増大させて、」などでも可。
- ✕ 「力関係の流れに加重を加える」のニュアンスの成分が入っていないければ✕。

B 「たとえばテロリストの憎悪を正義の理念で踏みつぶしたとしても、」〈2点〉

※傍線部を説明すべく、Aを説明して行く一方の条件。

① 「たとえばテロリストの憎悪を」の要素。(1点)

- ✕ 「テロリスト(の憎悪)を」のニュアンスの成分が入っていないければ✕。

② 「正義の理念で踏みつぶしたとしても」の要素。(1点)

○ 「正義の理念で破壊したとしても」「正義の名において殺戮したとしても」「などでも可。

✕ 「正義の理念で踏みつぶす」のニュアンスの成分が入っていないければ✕。

C 「さらなる憎悪を作り出し、」〈1点〉

※傍線部を説明すべく、Aを説明して行く、Bとは〈矛盾〉する他方の条件。

○ 「憎悪を増幅してしまい」「憎悪の拡大をもたらし、」などでも可。

✕ 「憎悪の拡大」のニュアンスの成分が入っていないければ✕。

D 「結局、大きく深く黒い憎悪の流れを世界史の上に生み出してしまうということ。」「〈1点〉

※B、Cをまとめて結論づける条件。

○ 「結果的に、大きく深く強く黒い憎悪の流れを世界史の上に作り出してしまうこと。」「つまりは、途方もなく巨大で深刻な憎悪の流れを世界にもたらしてしまうということ。」「などでも可。

✕ 「大きくor深くor黒い憎悪の流れ」「世界(史の上)に生み出してしまう」のニュアンスの二成分が入っていないければ✕。

問4 7点

(模範解答例)

A①〇1点

A②〇1点

功利主義の中心原理は最大幸福であり、全体の善の最大化のために、ある行為を選択した場合、〈A 2点

B〇1点

誰かの犠牲が不可避だとしても、〈B 1点

C〇1点

その行為は正しいとするのが、〈C 1点

X 〈逆説〉 ABCの2種以上に〇↓+1点

D〇1点

「犠牲の論理」「犠牲則」である。〈D 1点

Y 〈総合〉 Dに〇↓+1点

(内容)【5点】+構造【2点】=7点

【構造点】

☆ Xは、傍線部を説明すべく、A「功利主義の中心原理」の条件を押さえた上で、それが含み持つ〈矛盾〉する二条件B、Cに引き裂いて説明して行く〈逆説=矛盾を含むこと〉の構造への評価である。ここでは、〈条件Aの要素、条件B、条件C〉の内の二種二つ以上があればこの構造の骨組みが成立しているとみなして1点加算。

X 〈分析=分けること〉 〈A、B、C〉の内の二つ以上 〇1点

・ Yは、B、CをDにまとめて〈総合=まとめること〉する構造への評価である。ここでは条件Dがあればこの構造の骨組みが成立しているとみなして1点加算。

Y 〈総合=まとめること〉 Dの要素 〇1点

◎ 採点のポイント

※内容点の採点のポイントは以下のとおり。ただし、【構造点】X・Y（各1点）は、右に示した要素を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加点する。

A「功利主義の中心原理は最大幸福であり、全体の善の最大化のために、ある行為を選択した場合」〈2点〉

※傍線部を説明すべく、「功利主義の中心原理」を説明していく前提条件。

①「功利主義の中心原理は最大幸福であり、」の要素。（1点）

○「最大幸福こそが功利主義の中心原理であり、」「功利主義においては最大幸福こそが核心の原理であり、」などでも可。

×「功利主義の中心原理は最大幸福」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

②「全体の善の最大化のために、ある行為を選択した場合、」の要素。（1点）

○「全体善を最大化するために、特定の行為を選んだ場合、」「全体の善の最大化を図るために、一定の行為を選定した場合、」などでも可。

×「全体の善の最大化のためのある行為の選択」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

B「誰かの犠牲が不可欠だとしても、」〈1点〉

※傍線部を説明すべく、Aから引き出される一方の条件。

○「誰かを犠牲にせざるをえないとしても、」「誰かが犠牲になることが避けられないとしても、」「少数者が犠牲になるとしても」などでも可。

×「誰かの犠牲が不可欠」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

C「その行為は正しいとするのが」〈1点〉

※傍線部を説明すべく、Aから引き出される、Bとは〈矛盾〉する他方の条件。

○「その行為は正当とみなすのが」「行為の正しさを疑わないのが」などでも可。

×「(その) 行為は正しい」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

D『犠牲の論理』『犠牲則』である。」「〈1点〉

※B、Cをまとめて結論づける条件。

○『犠牲の論理』あるいは『犠牲則』である。」「『犠牲の論理』である。」「などでも可。

×『犠牲の論理』or『犠牲則』のニュアンスの成分が入っていないければ×。

(模範解答例)

A①〇1点 A②〇1点

功利性は ある目的の実現に資し、合理的な行為の脈絡を形成するため、〈A 2点〉

B〇1点

絶望が破壊的になるのを止めうるが、〈B 1点〉

C〇1点

ある一部を切り捨てる「犠牲則」を隠し持っており、〈C 1点〉

X〈逆説〉ABCのうち2種以上に〇↓+1点

D〇1点

結局は、イジメの肯定や格差の是認をもたらすことになる。〈D 1点〉

Y〈総合〉Dに〇↓+1点 (7点)

(内容【5点】+構造【2点】=7点)

【構造点】

☆Xは、傍線部の「功利性」の概念である条件Aから結果する内容を、傍線部後の〈確かにしかし〉の譲歩―逆接構文で提示されている〈矛盾〉する二条件B、Cに引き裂いて説明して行く〈逆説||矛盾を含むこと〉の構造への評価である。ここでは〈Aの要素、条件B、条件C〉の内の二種二つ以上があれば、この構造の骨組みが成立しているものとみなして1点加算。

X〈逆説||矛盾を含むこと〉 〈Aの要素、B、C〉の内の二種二つ以上 〇1点

☆YはB、CをDに〈総合||まとめること〉として結論づける構造への評価である。ここでは条件Dがあれば、この構造の骨組みが成立しているとみなして1点加算。

Y〈総合||まとめること〉 D 〇1点

◎ 採点のポイント

※内容点の採点のポイントは以下のとおり。ただし、【構造点】X・Y(各1点)は、右に示した要素を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加算する。

A 「功利性はある目的の実現に資し、合理的な行為の脈絡を形成するため、」〈2点〉

※傍線部の「功利性」のもたらすものを説明するための、前提条件としての「功利性」の定義。

①「功利性は」の要素。(1点)

✕「功利性」の成分が入っていないければ✕。

②「ある目的の実現に資し、合理的な行為の脈絡を形成するため、」の要素。(1点)

○「一定の目的の実現に役立ち、合理的な行為の筋道を示すため、」「特定の目的の実現に寄与し、合理的行為の経路を形作るため、」などでも可。

✕「或る目的の実現に資する」「合理的な行為の脈絡を形成する」のニュアンスの成分が入っていないければ✕。

B 「絶望が破壊的になるのを止めうるが、」〈1点〉

※傍線部の「功利性」のもたらすものを説明すべく、Aを説明していく一方の条件。

○「絶望が破壊的なものになるのを止めうるが、」「絶望の破壊性への傾斜を阻止しうるが、」などでも可。  
✕「絶望が破壊的になるのを止める」のニュアンスの成分が入っていないければ✕。

C 「ある一部を切り捨てる『犠牲則』を隠し持つており、」〈1点

※傍線部の「功利性」のもたらすものを説明すべく、Aを説明していく、Bとは〈矛盾〉する他方の条件。

○ 「一定部分を切除する犠牲の論理を潜ませており、」「特定部分を排除する『犠牲則』を密かに有しており、」などでも可。

✕ 「或る一部を切り捨てる『犠牲則』を隠し持つ」のニュアンスの成分が入っていないければ✕。

D 「結局は、イジメの肯定や格差の是認をもたらすことになる。」〈1点

※B、Cをまとめて結論づける条件。

○ 「つまり、いじめを肯定したり、格差是認につながるようになる。」「要するに、いじめ肯定につながったり、格差を認めることになってしまう。」などでも可。

✕ 「いじめの肯定」「格差の是認」のニュアンスの成分が入っていないければ✕。

問6 8点

(模範解答例)

A①〇1点

A②〇1点

インディアンの処刑の場に入り込んだジムが、 悪人の長官に、〈A 2点

B〇1点

一人射殺すれば残りの一九人を助けてやるが、〈B 1点

C〇1点

抱めば全員を射殺すると言われた場合、〈C 1点

X 〈逆説〉ABCの2種以上に〇↓+1点

D①〇1点

D②〇1点

犠牲の論理による正しさとは、 彼が無実のインディアンを射殺することだと主張して、〈D 2点

Y 〈総合〉Dに〇↓+1点

(内容【6点】+構造【2点】=8点)

【構造点】

☆Xは傍線部を説明すべく、ジムのおかれた「場」の条件であるAにおいて、長官が命じる〈矛盾〉を含む命令の二条件B、Cに引き裂いて説明して行く、〈逆説〓矛盾を含むこと〉の構造への評価である。〈ここでは〉〈条件Aの要素、条件B、条件C〉の内の二種二つ以上があれば、この構造の骨組みが成立しているとみなして1点加算。

X 〈逆説〓矛盾を含むこと〉 〈Aの要素、B、C〉の内の二種二つ以上 〇1点

☆YはB、CをDに〈総合〓まとめること〉として結論づける構造への評価である。〈ここでは〉Dの要素 があれば、この構造の骨組みが成立しているとみなして1点加算。

Y 〈総合〓まとめること〉 Dの要素 〇1点

◎ 採点のポイント

※内容点の採点のポイントは以下のとおり。ただし、【構造点】X・Y(各1点)は、右に示した要素を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加算する。

A 「インディアンの処刑の場に入り込んだジムが、悪人の長官に、」〈2点

※傍線部を説明すべく、ジムのおかれた「場」を設定する条件。



①「インディアンの処刑の場に入り込んだジムが、」の要素。(1点)

○「インディアンの処刑場に足を踏み入れたジムが、」「ジムが、インディアンの処刑の場に入り込んだ時、」などでも可。

×「ジムが、インディアンの処刑の場に入り込む」の成分が入っていないければ×。

②「悪人の長官に、」の要素。(1点)

×「悪人の長官」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

B「一人射殺すれば残りの一九人を助けてやるが、」(1点)

※傍線部を説明するための、Aにおける長官の命令の一方をなす条件。

○「一人銃殺すれば残った一九人は解放してやるが、」「一人撃ち殺せば残りの一九人の命は安泰だが、」などでも可。

×「一人射殺すれば残りの一九人を助けてやる」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

C「拒めば全員を射殺すると言われた場合、」(1点)

※傍線部を説明するための、Aにおける長官の命令の他方をなす、Bとは〈矛盾〉条件。

○「拒んだらみな殺しにすると言われた場合、」「拒否すれば全員を撃ち殺すと言われた場合、」  
×「拒めば全員射殺」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

D「犠牲の論理による正しさとは、彼が無実のインディアンを射殺することだ」という「  
と。」「(2点)

※B、Cをまとめて結論づける条件。

①「犠牲の論理による正しさとは、」の要素。(1点)

○「犠牲の論理が命じる正しさとは、」「犠牲の論理に則った正しさとは、」などでも可。

×「犠牲の論理による正しさ」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

②「彼が無実のインディアンを射殺することだ」という「」の要素。(1点)

○「ジムが無実のインディアンを射殺することになること。」「彼が無実のインディアンの射殺を実行することだ」ということ。」「などでも可。

×「彼が無実のインディアンを射殺する」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

二 (古文) 採点基準 (文Ⅱ30点)

問1 各2点×3＝6点

「傍線部①」「ただにや明かさむ」の現代語訳。

A○1点 B○1点

(解答例) 何もしないで 夜を明かすことができようか、いやできません。【2点】

☆各加点要素の加点の条件

A「何もしないで」(1点)

※「ただに」の解釈

○「何も(風情のあること)もせずに」の意味になっていること。

○「いたずらに」「無駄に」は可○。

※「ただ」は不可※。

B「夜を明かすことができようか、いやできません」(1点)

※「や明かさむ」の解釈。

○「明かすことができようか、(いやできません)のような「夜を明かす」＋反語の意味になっていること。

「傍線部②」「やうやう白む山際、いつと言ひながら」の現代語訳。

A○1点 B○1点

(解答例) 次第に白くなっていく山際は 普段と同じ様子ではあるとはいふものの、【2点】

☆各加点要素の加点の条件

A「次第に白くなっていく山際は」(1点)

※「やうやう白む山際」の解釈

○「次第に」＋「白くなる」がそろっていること。

B「普段と同じ様子ではあるとはいふものの」(1点)

※「いつと言ひながら」の解釈

○「いつもと同じ」＋逆接になっていること。

○「いつもと同じ」は、「普段と同じ」などでもよい。

※「いつもと同じ」が単に「同じ」となっているものは不可※。

「傍線部③」「しのばれしのぶつまとなるべき」の現代語訳。

A○1点

(解答例)

私のこと(を) 思い出してもよかったり、(私自身が) 思い出したりする

B○1点

きつかけとなるべきこと(を) 思い出してもよかったり。 【2点】

☆各加点要素の加点の条件

A「私のこと(を) 思い出してもよかったり、(私自身が) 思い出したりする」(1点)

※「しのばれしのぶ」の解釈

○「(人)に 思い出してもらったり、(自らが) 思い出したりする」の内容であること。

B「きつかけとなること(を) 思い出してもよかったり」(1点)

※「つまとなるべき」の解釈。

○「つま」が「きつかけ・手がかり・端緒」などと訳してあること＋推量になっていること。

問2 5点

A○1点

B○1点

(解答)

下二段動詞「絶ゆ」未然形＋打消の助動詞「ず」連用形

C○1点

D○1点

十四段動詞「候ふ」未然形＋尊敬の助動詞「る」連用形

E○1点

十過去の助動詞「き」の連体形。 【5点】

※ABCDE内はそれぞれ完答のみ。

問3 4点

※「かくまでのなさけ尽くさで大方に花と月とをただ見ましたに」の歌の大意を説明する。

A○2点

B○1点

(解答例) 月と花を見ただけでも素晴らしい夜なのに、それに加えて素晴らしい風情を尽くした今夜の趣向は

C○1点

格別である とくびいこと。 【4点】

☆各加点要素の加点の条件

A「月と花を見ただけでも素晴らしい夜なのに」(2点)

※「大方に花と月とをただ見ましたに」の解釈・大意。

○「月と花（を見た）だけでも素晴らしい（夜な）のに」という内容になっていること。

**B「それに加えて素晴らしい風情を尽くした今夜の趣向は格別である」**（1点）

※「かくまでのなさけ尽くさで」の解釈とそこで言いたいこと。

○「風情の限りを尽くした今夜は格別だ」という内容になっていること。

○「かくまでのなさけ」は、「風情溢れる今夜の詩歌管弦の遊び」のこと。「かくまでのなさけ」を尽くさない「月と花」を見ただけでも十分素晴らしいのに、「かくまでのなさけ」を尽くした「風情溢れる今夜の詩歌管弦の遊び」でさらにいつそう素晴らしい夜だという内容。「夜」はなくてよい

**C「ということ」**（1点）

※文末処理。

※A・Bに得点が無い場合、これだけでは得点できない。

#### 問4 4点

※「少将かたはらいたきまで詠じ誦じて」の「かたはらいたき」に筆者のどのような心情を感じ取れるかを説明する。

A○1点

**（解答例）** 隆房の少将が筆者の詠んだ歌をさも感動した様子で歌い上げることに對する

B○2点

C○1点

いたたまれない 心情。

【4点】

#### ☆各加点要素の加点の条件

**A「隆房の少将が筆者の詠んだ歌をさも感動した様子で歌い上げることに對する」**（1点）

※筆者がある心情になる原因

○「少将に歌を読み上げられたことに對する」という内容があればよい。

**B「いたたまれない」**（2点）

※筆者の心情。「かたはらいたき」の訳

○「いたたまれない」・「恥ずかしい」・「きまりが悪い」などで○。

**C「心情。」**（1点）

※文末処理。

○「気持ち」「思い」などでも可。

※A・Bに得点が無い場合、ここだけでは得点できない。

問5 7点

※「歌もえ詠まぬ者はいかに」から読み取れる権亮（＝維盛）心情を説明する。

A○3点

B○3点

C○1点

(解答例)

歌には自信がないので、できれば詠まずにすませたいという**心情**。【7点】

☆各加点要素の加点の条件

A「歌には自信がないので」(3点)

※心情の理由

○「歌には自信がない」(ので)「もしくは「歌は下手であるから」のような内容であること。

B「できれば詠まずにすませたい」(3点)

※具体的な心情

○「詠まずにすませたい」「このまま詠まずにいたい」のような内容であること。

C「心情」(1点)

※文末処理。

○「気持ち」「思い」などでも可。

※A Bに得点が無い場合、ここだけでは得点できない。

問6 2点×2＝4点

(解答) (2)・(3)

※順不同

三 (古文) 採点基準 (30点)

問1 各2点×3＝6点

「傍線部①」「移ろひ住みたまふべき所の、よろしきもなかりければ」の現代語訳。

A○1点

B○1点

(模範解答例)

移り住みなさることのできる邸宅で

まずまずな場所もなかったので【2点】

☆各加点要素の加点の条件

A「移り住みなさることのできる邸宅で」(1点)

※「移ろひ住みたまふべき所の」の現代語訳

○「移り住むことのできる・引っ越しできる」＋尊敬＋同格の「で」のようになっていること。

B「まずまずな場所もなかったので」(1点)

※「よろしきもなかりければ」の現代語訳

○「よろしき」が「まずまず・並みの」と訳してあること。「家・所」が補足してあること。

「傍線部②」「いとどしくながめたまふより外のことなし」の現代語訳。

A○1点

B○1点

(模範解答例)

ますますもの思いに沈む

他何もなさることがない。【2点】

☆各加点要素の加点の条件

▲尊敬の意味のないものはマイナス1点。

A「ますますもの思いに沈む」(1点)

※「いとどしくながめたまふ」の現代語訳。

○「ますます」＋「物思いに沈む」の意味であること。

B「他何もなさることがない」(1点)

※「より外のことなし」の現代語訳。

○「他何もすることがない」という意味であること。

「傍線部③」「才いとかしこくて、世のおぼえも軽からねど、」の現代語訳。

A〇1点

B〇1点

(模範解答例) 学問(の才能)もたいそう優れていて、世間の評判も並一通りではなかったが、【2点】

☆各加点要素の加点の条件

A 「学問(の才能)もたいそう優れていて」(1点)

※「才いとかしこくて」の現代語訳

○「学問(の才能)が優れていて」と訳してあること。

B 「世間の評判も並一通りではなかったが」(1点)

※「世のおぼえも軽からねど」の現代語訳。

○「世のおぼえ」が「世間の評判」もしくは「世間の見方」と訳してあること。

※ 逆接(「くねど」の訳)になっていないものは不可※。

問2 6点

※「昔の人もしたまはましかば」には誰のどのような心情が描かれているか説明する。

(模範解答例)

A〇12点 B〇2点

C〇2点

八の宮の、亡くなった北の方が生きていらっしやったならよかったのになあと思いがれる心情。【6点】

☆各加点要素の加点の条件

A 「八の宮の」(2点)

※「誰の」の説明。

○「中の君の琴の技法」でも可○。

B 「亡くなった北の方が生きていらっしやったならよかったのになあ」(2点)

※心情の具体的な説明。傍線部「昔の人もしたまはましかば」の解釈

○「北の方の死を惜しむ」の意があればよい。

C 「思いこがれる心情」(2点)

※心情。傍線部とその直後「と思ひきこえたまはぬをりなかりけり」を踏まえた心情。

○「思いこがれる」は「思い慕う・つらい・切ない」でも可。

※ 「心情」のみは不可※加点しない。

▲文末が「心情」を表す語になっていない場合は▲1点減点。

問3 4点+5点=9点

ア 4点

(解答) 煙

イ 5点

※「見し人も宿も煙になりにしをなにとてわが身消え残りけん」の解釈。

(模範解答例)

A〇2点

B〇2点

北の方も亡くなって火葬され 京の邸宅も火事で燃えてしまったのに

C〇1点

どうして自分だけが消えずに生き残ってしまったのだろうか。【6点】

☆各加点要素の加点の条件

A「北の方も亡くなって火葬され」(2点)

※「見し人」が「煙になりにし」の解釈。

○「北の方が火葬された」のように解釈されていれば○。

B「京の邸宅も火事で燃えてしまった」(2点)

※「宿」が「煙になりにし」の解釈

○「京都の自宅が燃えてしまった」のように解釈されていれば○。

C「どうして自分だけが消えずに生き残ってしまったのだろうか」(1点)

※「なにとてわが身消え残りけん」の解釈。

○疑問+「自分自身が生き残った」の内容。反語で解釈も可。

問4 5点

※「年ごろ学び知りたまへることどもの、深き心を説き聞かせたてまつり」はどのようなことを述べているか具体的に説明する。

(解答例)

A〇2点

B〇2点

C〇1点

八の宮が長年学んできた仏教の理念を、阿闍梨が説明申しあげた、ということ。【5点】



☆各加点要素の加点の条件

A 「八の宮が長年学んできた仏教の理念を」(2点)

※ 「年ごろ学び知りたまへることどもの深き心を」の解釈。

○ 「八宮が仏教を長年学んできた」という内容であればよい。

○ 「理念」という語は「深い意味のあるところ」「とても大切な部分」などで○。「知識」でも可とする。

B 「阿闍梨が説明申しあげた」(2点)

※ 「説き聞かせたてまつり」の解釈

○ 「阿闍梨が仏教の理念を教えた」という内容であればよい。

C 「ということ。」(1点)

※文末処理。

※ ABに得点が無い場合、ここだけでは得点できない。

問5 4点

※ 「隔てなく物語したまふ」で、八の宮は阿闍梨にどのようなことを伝えたのかを説明する。八の宮の話した「心ばかりは蓮の上に思ひのぼり、濁りなき池にも住みぬべきを、いとかく幼き人々を見棄てむうしろめたさばかりになむ、えひたみちにかたちをも変へぬ」のまとめ。

(模範解答例)

A ○1点

B ○2点

C ○1点

極楽往生するために出家をしたいが 二人の娘の将来が気がかりで出家することができないでいる ということ。 【4点】

☆各加点要素の加点の条件

A 「極楽往生するために出家をしたいが」(1点)

※ 「心ばかりは蓮の上に思ひのぼり、濁りなき池にも住みぬべきを」の解釈・まとめ。

○ 「極楽行くために出家をしたい」という内容になっていること。

B 「二人の娘の将来が気がかりで出家することができないでいる」(2点)

※ 「いとかく幼き人々を見棄てむうしろめたさばかりになむ、えひたみちにかたちをも変へぬ」の解釈・まとめ

○ 「二人の娘が気になって出家できない」という内容になっていること。

C 「ということ。」(1点)

※文末処理。

※ ABに得点が無い場合、ここだけでは得点できない。

〔四〕(漢文) 採点基準 (合計 45点)

問1 6点

※「三日不粒、父子不能相存。」とはどういうことか説明する。

A○2点

B○2点

C○2点

(解答例) ほんのわずかな間、食糧がないだけで、民は死に絶えてしまうということ。

【6点】

☆各加点要素の加点の条件

A「ほんのわずかな間」(2点)

※「三日」の解釈

○「三日」を「ごく短期間」などと解釈していること。

B「食糧がないだけで」(2点)

※「粒あらずんば」の解釈

○「粒あらず」を「食糧がない」などと解釈していること。

※「穀物がない」では説明になっていないので不可。

○「食料がない」「食べ物が無い」などは可。ただ「食べるための穀物がない」などの場合は説明している  
ので可。

C「民は死に絶えてしまうということ」(2点)

※「父子相存する能はず」の解釈、説明の文末。

○「父子…」を「民は死んでしまう」と解釈していること。

問2 4点

※「安可軽農事而貴末業哉。」をすべてひらがなで書き下す。

A○2点

(解答) いづ(ず)くんぞのうじをかるんじて

B○2点

まつげふ(ぎ)よう(を)たつ(つ)とぶげんや

☆各加点要素の加点の条件

※A↓Bの順序になっていない場合は全体として加点なし0点。

○句点。の有無は不問。

○現代仮名づかいでも、歴史的仮名づかいでも、どちらでも可。

A 「いづ(ず)くんぞのうじをかるんじて」(2点)

○「軽(かるんじて)「は」あなどりて(あなどって)あなどつて(も)可○。

B 「まつげ(ぎ)よう(を)たつ(つ)とぶ(げ)んや」(2点)

○「貴(たつとぶ)たつとぶ(は)「は」い(つ)とぶ(たぶ)とぶ(べ)ち(ら)も可

問3 8点

※「江南朝士」について、筆者は何を批判しているか、本文全体を踏まえて80字以内で説明する。

A○2点

(解答例) 国家から与えられる俸禄に頼ってのんびり暮らすばかりで、 まともに働こうとせず、

B○3点

C○3点

国家の大本である農業について全く知らず、 官僚としての仕事も家の経営もできない点。【8点】

☆各加点要素の加点の条件

※以下のABCの要素に分け、採点。なお、余計な記述があった場合は、

○本文の内容と矛盾せず、解答の内容を変えない場合 ↓ 不問。

▲本文の内容と矛盾する、論理的に不自然になる場合 ↓ 各マイナス1点

※余計な記述のせいで答案全体が意味不明なった場合 ↓ 全体0点。

A 「国家から与えられる俸禄に頼ってのんびり暮らすばかりで、まともに働こうとせず」(2点)

○「俸禄に頼って生活し、まともに働かない」に触れていれば○。

B 「国家の大本である農業について全く知らず」(3点)

○「国家の大本である農業について知らない」に触れていれば○。実際に農業に従事する必要はない。また、「農業の重要性を知らない」ということでもない。「農業のリアルを知らない」ということ。

C 「官僚としての仕事も家の経営もできない」(3点)

○「官僚の仕事も家の仕事もできるわけがない」に触れていれば○。

問4 4点×2＝8点

(1) 4点

※「不知幾月当下幾月当収」に返り点を付ける。

(解答) 不<sup>レ</sup>知<sup>二</sup>幾月当<sup>レ</sup>下幾月当<sup>レ</sup>収 【4点】

(2) 4点

※「不知幾月当下幾月当収」をわかりやすく解釈する。

A○1点

B○3点

(模範解答) どの月に種を蒔くべきか、どの月に収穫すべきかも知らない。 【4点】

☆各加点要素の加点の条件

✕A↓Bの順序になっていない場合は全体として加点なし。

○読点「、」句点「。」の有無は不問

※ABともに、

①「幾月」を「何ヶ月間」「何ヶ月も」など期間だと誤解した答案は不可✕。

○麦とかの種を何月(なんがつ)に蒔くのか、四月なのか五月なのかを知らない……と解釈できていればよい。

②再読文字「当に…べし」を「…すべき」「…しなければならぬ」などと正しく訳していること。

A「どの月に種を蒔くべきか」(1点)

※「幾月当に下すべきか」の現代語訳

○「幾月当に下すべきか」を「どの月に種を蒔くべきか」などと解釈していること。

○当(まさに)の訳「…すべき」「…しなければならぬ」は、A Bの両方で訳していても、Bでまとめて1回であつてももちろん構わない。

B「どの月に収穫すべきかも知らない」(3点)

※「幾月当に収むべきかを知らず」の現代語訳

○「幾月当に収むべきかを知らず」を「どの月に収穫すべきかも知らない」などと解釈していること。

問5 6点

※「安識世間余務乎。」を、わかりやすく解釈する。

A〇3点

B〇3点

(解答例) 世間のその他の仕事を わかっているはずがない。 【6点】

☆各加点要素の加点の条件

※A↓Bの順序になっていない場合は全体として※0点。

○句点。の有無は不問。

A「世間のその他の仕事を」(3点)

※「世間の余務」の解釈

○「世間の／世俗の／世の中の／世の」「(本業たる農業の) 他の仕事／他の務め／他の業務」などと解釈していること。

B「わかっているはずがない」(3点)

※「安くんぞ…を識らんや」の解釈

○「わかっているはずがない／理解できているわけがない／知っていることなどありえない」など、あるいは、「どうして…：知ろうか／どうして…：わかってるか／どうして…：理解できようか」などと反語で解釈している。

問6 各2点×5＝10点

(解答) ㉔ けだし ㉕ それ ㉖ およそ

㉗ ついに(つひに)／にわか(にはかに)

㉘ じふいじふ

○現代仮名づかいでも、歴史的仮名づかいでも、どちらでも可。

問7 1点×3＝3点

(1) 1点×3＝3点

(ウ) (カ) (ケ)

☆各加点要素の加点の条件

○正解一つにつき1点を与える。

▲不正解一つにつき1点減点する。

※ ( ) の有無は問わない。

〔採点例〕

(ウ) (カ) (ケ) … 1点×3＝3点

(ウ) (カ) … 1点×2＝2点

(ア) (ウ) (カ) (ケ) … 1点×3＝3点、減点1点＝2点

(ウ) (エ) (オ) (キ) … 1点×1＝1点、減点3点＝0点